

共 企 号
平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

共和町長 山 本 栄 二



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号にて依頼のありました標記の件について、
別紙のとおり提出しますのでよろしくお願い致します。

企画振興課企画調整係

tel : 0135-73-2011 (内231)

fax : 0135-73-2288

mail : kw.kikaku@sand.ocn.ne.jp

◎ 道路整備のあり方

人口減少社会の到来など、社会情勢が大きく変化、また地域における経済活動が低迷し地方の活力が低下する中、地域の活性化のため必要な道路整備を推進することは、国の使命であると考えます。

これまで国は地域の道路整備に対するニーズや、国土の均衡ある発展のため、真に必要な道路整備を進めてきたものと認識しています。

道路中期計画の推進にあたっての基本的視点の中で、「選択と集中による効果的な事業の実施について」言及しておりますが、基本的には理解できるものの、整備の進んだ都市部とは異なり整備が遅れてるのが実情であります。

道路整備の指標として、費用対効果（費用対便益）を算出し、効果の高いところを優先整備していますが、地域間格差（国土の均衡ある発展）を解消する観点から、整備が立ち遅れている地方の住民の安全、安心を確保する視点で、地方部に力点をおいた費用対効果を検討してもらい、それに基づき道路整備を進めて頂きたい。

さらには画一的な道路の作り方ではなく、道路に求められる機能と、地域の状況やニーズをあわせた北海道らしさを持つ道路の作り方が必要であります。

救急医療の面では、救命救急センターへの搬送時間は東京が 17 分に対し、北海道は平均で約 6 倍の 100 分、後志管内、岩内・札幌間は 110 分で、長時間搬送となっているのが実態であります。人の尊い命には都市部も地方部も同じであるべきと考えます。

自動車交通に依存しているこの社会や社会活動を支える最も重要な基盤であり、都市部中心ではなくもっと地方に目を向けた対応と格差是正からも北海道横断自動車道（黒松内・小樽間）の整備が必要であります。

○現状

◎救急医療等

多くの地方では、医師の都市部への流出等により、地域医療体制が確保できない状況にあります。

このことから、地方にあっては重篤な傷病者への治療が困難で、大都市の高次医療に依存せざるを得ない状況にあります。

◎防災体制

本町に隣接します泊村には、北海道電力が設置する原子力発電所があります。

日頃から、地域住民は原子力発電所と共存し、住民が不安のないよう安心して暮らすことができる防災体制の確立が求められています。

○課題

◎救急医療等

町内の医療機関及び地域センター病院の充実と合わせ、救急医療体制は第二次・第三次（小樽・札幌）の高度医療機関への搬送が必要になります。現状、札幌への搬送時間 110 分、救命の観点から搬送時間の短縮が求められています。

地域として、早急な高規格道路の整備（黒松内・小樽間）が必要であります。

◎防災体制

災害時に迅速に避難ができる体制の確立のため、現有道路の改良整備や維持、管理による避難路の充実、また、広域避難道路の新設など、地域住民が安心して暮らせるための道路整備

- ・ 岩内共和道路の早期整備
- ・ 北海道横断自動車道（黒松内・小樽間）の早期整備
- ・ 広域避難道路新設整備（道所管 3 ヶ所）

など地域の安全・安心のため、早急な道路整備が必要である。

②-2 地域の目指すべき将来像

本町は現在平成 21 年を基準年とする、今後 10 年間の町づくりの指針第 7 次の総合計画を策定中であります。

第 7 次の総合計画策定にあたり実施致しましたアンケート調査では、今後力を注ぐべき産業は、の問いに対し「農業の振興」が 63.6%でらいでんブランドの知名度向上などを求める声が多くありました。

町の基幹産業は農業と位置付け、これまでも農業振興に力点をおいた施策を講じてまいりました。

農産物は栽培技術などの向上はもとより良質、良食味の農産物を安定的に供給することにより、市場における信頼は高まり、ブランド化が確立することにより、地域経済の活性化を図ることができます。

また、収穫された新鮮な農産物を大消費地である札幌圏、首都圏及び関西圏の人口集中地域へ速やかに輸送する必要があります。

幹線道路網を整備することにより、輸送時間が短縮され、コスト軽減や品質及び価格面で生産者、消費者とも有効な社会資本整備となります。

この様に本町の、第一次産業の農業の発展は町づくりの根幹をなすものであり、重要な産業で今後も持続発展させる必要があります。

この様なことから、北海道横断自動車道（黒松内・小樽間）の高速交通ネットワークの形成は、物流・観光など産業振興などの面からも、道路網の早期整備について、要望するものであります。

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項 ・地域活力の向上	○代表事例 ・北海道横断自動車道(黒松内・小樽間)の早期整備	○期待する効果や評価等 救急医療体制は、小樽・札幌の高度医療機関への搬送が必要になります。第1次医療機関の岩内から小樽・札幌への第2次、第3次医療機関へ搬送する患者数は年間概ね220名程度で、1.6日に1人の割合となっています。また札幌までの搬送時間は現状110分要しています。北海道横断自動車道(黒松内・小樽間)が整備されることにより、現在110分要している搬送時間が短縮されるなど、患者への負担が大幅に軽減されます。 また、本町のまちづくりの根幹をなす第1次産業の発展のために、北海道横断自動車道(黒松内・小樽間)の高速交通ネットワークの形成は、物流・観光など産業振興の面からも、道路網の早期整備が必要です。	○その他
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	・岩内共和道路の早期整備 ・北海道横断自動車道(黒松内・小樽間)の早期整備 ・広域避難道路新設整備(道所管3箇所)	現状の地域防災計画では、災害時の避難は現有道路を利用した防災体制を確保していますが、まだ十分とはいえない状況にあります。万が一の災害に際しては、国道5号、229号、276号と道道及び町道を利用して広域避難となりますが、特に国道276号(南幌似～国富間)の渋滞が予想され、別ルートの道路整備が早期に必要であります。広域避難路として道路を整備することにより、町内の一部地域に集中しない、各エリアからの広域避難ルートが確立されます。	

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

北海道共和町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・ 少子高齢化社会に対応した子育て環境・バリアフリー社会の形成 ・ 良好な生活空間の形成	道路の維持管理や冬期除雪の充実	本町は国道5号、229号、276号の三路線があり、交通事故が多発している。道路管理者・警察や関係機関が一体で、交通事故防止への取組みを進めているが対応に苦慮している。特に国道5号は、山岳地帯で随所に峠特有の縦断線形、曲線形状があり、正面衝突事故や（平成15年 正面衝突事故1事故で4名死亡）冬期間の視程障害・路面凍結による滑走事故が発生しており、附帯施設の整備と寒冷対策等の維持管理の徹底が必要である。 また、車の安全走行を確保するには、道路構造上の根本的な問題を解決することが必要不可欠であり、北海道横断自動車道（黒松内・小樽間）の早期整備が必要である。	